

東京工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	教養選択Ⅱ (金融リテラシー)	
科目基礎情報							
科目番号	0157			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	情報工学科			対象学年	5		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	レジュメを用いる						
担当教員	村瀬 智之,鈴木 慎也						
到達目標							
本講義では、人生における様々なイベントにおいて発生する費用（例えば、子供の教育、住居、老後など）に備え、人生の資金計画をどう描き、若い頃からどう準備するのかなどについて考えられる知識の獲得を目的とする。							
到達目標は次の2点である。 ①お金に関する基礎的な知識を習得し、自分自身の家計管理や将来設計（マネープランニング）を立てることができるようになること ②①の際に活用を検討する各種の金融商品について適切な理解を有するようになること							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	お金に関する基礎的な知識を十分習得している。		お金に関する基礎的な知識をある程度習得している。		お金に関する基礎的な知識を習得していない。		
評価項目2	自分自身の家計管理や将来設計（マネープランニング）を適切に立てることができる。		自分自身の家計管理や将来設計（マネープランニング）をある程度立てることができる。		自分自身の家計管理や将来設計（マネープランニング）を立てることができない。		
評価項目3	各種の金融商品知識が十分である。		各種の金融商品知識をある程度有している。		各種の金融商品知識を有していない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	お金や各種の金融商品に関する基礎的な知識を習得し、これを自分自身の家計管理や将来設計に活かせるようになるためには、実際に自分の手を動かすことが肝要である。また、同世代の学友がどのように考えたかを知ることも有益である。そのため、演習やグループディスカッションを多く取り入れている。						
授業の進め方・方法	授業は、講義→演習の形で原則は進んでいく。ただし、第3、6～8、11～12回は演習時間がメインとなる。また、演習したものは発表や作成したものを利用したグループディスカッションをしてもらう。						
注意点	最終試験よりも、授業中の演習で作成するレポート、発表、グループディスカッションの取り組み具合等の配点が大きい。ゆえに、積極的な授業参加を期待する。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
教養選択Ⅱ							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	オリエンテーション 金融リテラシーの重要性		講義の進め方を理解する。 金融リテラシーが求められることを理解する。		
		2週	ライフ・プランニング①		資産形成の計画的準備の意義を理解する。 資産運用が生活防衛に必要不可欠なものであることを理解する。		
		3週	ライフ・プランニング②		キャッシュ・フロー表の作成ができる。		
		4週	おカネを稼ぐ①		職業選択の意義、就労形態と生涯所得について理解する。		
		5週	おカネを稼ぐ②		税金や公的な社会保障制度を把握した上で給与明細が読み解けるようになる。		
		6週	リスクに備える①		一生におけるリスクと保険の役割、生命保険の活用法を知り、生命保険会社販売商品内容を読み解けるようになる。		
		7週	リスクに備える②		一生におけるリスクと保険の役割、損害保険の活用法を知り、損害保険会社販売商品内容を読み解けるようになる。		
		8週	おカネをふやす①		不動産の活用を考えるとときに、必要となる基礎的な法的知識、税について理解する。		
	4thQ	9週	おカネをふやす②		金融商品の種類・特徴に触れた後、投資の意義、リスクとリターンの関係、長期投資の重要性を理解する。		
		10週	おカネをふやす③		投資信託の仕組み、分散投資の重要性を理解する。		
		11週	おカネをふやす④		株と債券の投資について理解する。		
		12週	おカネをふやす⑤		販売用資料や目論見書から商品特性を理解し、自分に適した商品を選ぶようになる。		
		13週	相続と贈与		相続と贈与に関する法律や税金の基礎知識を理解する。		
		14週	悪徳商法・金融商品詐欺		学生や若手社会人が陥りやすい悪徳商法・金融商品詐欺と予防策などを理解する。		
		15週	まとめ		問題演習を通し、既習内容の習得度合いを高める。		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	40	10	0	10	40	0	100
基礎的能力	20	5	0	5	20	0	50
専門的能力	20	5	0	5	20	0	50
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0